

三重県知事・三重県議会議長のパラオ訪問（5月8日）の概要について

三重県とパラオ共和国が友好提携を締結し30周年（1996年7月25日締結）を迎えることから、さらなる関係強化をめざし、パラオ共和国を訪問しました。5月8日（金）には、ペリリュー島を訪問し、先の大戦で亡くなられた方を慰霊し平和を祈念しました。また、パラオ訪問の締めくくりに現地記者会見を行いました。

【5月8日（金）】

1 ペリリュー島訪問

- (1) 場 所 ペリリュー島内 故クニオ・ナカムラ元大統領の墓、第二次世界大戦記念博物館、みたまの碑、オレンジビーチ、西太平洋戦没者の碑

出席者

(三重県) 知事 一見 勝之
政策企画部長 楠田 泰司 ほか

(県議会) 議長 服部 富男
国際交流促進議員連盟 日本・パラオ部会 会長 廣 耕太郎
西場 信行、野村 保夫

(伊勢市) 教育委員会事務局学校教育課長 井村 直樹

(鳥羽水族館) 館長 若井 嘉人 ほか

(2) 概 要

- ① ペリリュー島を高速船で訪問し、先の大戦で亡くなられた方を慰霊し、平和を祈念しました。慰霊碑等では、献花を行うとともに黙祷を捧げました。また、ペリリュー島において、伊勢市大湊町出身の方も先の大戦において亡くなられていることから、一見知事から、三重県から持参した「伊勢市大湊海岸の砂」と、県庁に咲く「ツツジ」も手向けました。
- ② 日本国政府によって設置された西太平洋戦没者の碑では、一見知事が三重県遺族会伊藤早苗会長からお預かりした「追悼のお言葉」を代読し、遺族会の思いも捧げました。
- ③ 第二次世界大戦記念博物館では、当時の戦闘を伝える資料や写真等を見学し、改めて戦争の悲惨さや平和の尊さを学びました。
- ④ 友好提携締結のきっかけとなった、故クニオ・ナカムラ元大統領（お父様が伊勢市大湊町のご出身）のお墓参りを行い、冥福を祈るとともに、元大統領のご功績を礎に、友好交流をさらに進展させることを誓いました。



(故クニオ・ナカムラ元大統領のお墓参り)



(第二次世界大戦記念博物館)



(みたまの碑)



(オレンジビーチでの献花の様子)



(西太平洋戦没者の碑)



(三重県遺族会の追悼の言葉代読)

2 ペリリュー州知事主催昼食会

(1) 場 所 ペリリュー島 サウス・ドッグ (ペリリュー州)

(2) 出席者

(相手方) パラオ共和国 ペリリュー州知事 エマイス・ロバーツ

(三重県) 知事 一見 勝之

政策企画部長 楠田 泰司 ほか

(県議会) 議長 服部 富男

国際交流促進議員連盟 日本・パラオ部会 会長 廣 耕太郎

西場 信行、野村 保夫

(伊勢市) 教育委員会事務局学校教育課長 井村 直樹

(鳥羽水族館) 取締役館長 若井 嘉人 ほか

(3) 概要

① ペリリュー州知事をはじめ州政府関係者と昼食を共にし、今後の交流に向けた意見交換を行いました。

② ペリリュー州知事からは、「故クニオ・ナカムラ大統領に繋いでいただいた関係を礎として、三重県の方々にもぜひ一度ペリリュー州にお越しいただきたい。そして、この地の歴史や自然、両地域の「キズナ」に触れていただきたい」との発言がありました。

※「キズナ」は、日本語が元になったパラオ語で、日本語と意味も同じ

③ 一見知事からは、「ここで出会ったご縁を大切に、ペリリュー州と三重県の交流につなげていきたい」と今後の関係強化に向けた思いを伝えました。



(ロバーツ ペリリュー州知事との面談の様子)

※ペリリュー島について

ペリリュー島は、パラオ諸島南部に位置する島で、人口は 484 人 (2015 年国勢調査) です。第二次世界大戦以前は、日本が委任統治領「南洋群島」として統治していました。

第二次世界大戦中の昭和 19 (1944) 年 9 月に始まったペリリュー島の戦いでは、兵 1 万の日本軍が 4 万を超える米軍を相手に、74 日間に及ぶ徹底抗戦を繰り広げました。当初は米軍が圧倒的優位とみられていましたが、日本軍守備隊が粘り強く戦ったことで、今では米海兵隊史上、最も激しい戦いの一つに数えられます。

3 現地記者会見

(1) 場 所 在パラオ日本国大使公邸（コロール州）

(2) 出席者

(三重県) 知事 一見 勝之

(3) 概 要

- ① 在パラオ日本国大使公邸において、対面及びオンラインにより会見を行い、パラオ訪問の成果等について発信しました。
- ② 現地参加のプレス3社、オンラインでは三重県から5社が参加され、パラオ訪問の成果などについて、活発な質疑応答が行われました。



(記者会見の様子)